



# ゆめ通信

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10  
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

## 新年のごあいさつ

日本養豚事業協同組合  
理事長 松村 昌雄

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」に移行し、日常における基本的感染対策が求められることはなくなり、改めて普通のことが出来ることの有り難みを感じた年でした。

一年を振り返りますと、大きな出来事としては円安、飼料高、豚枝肉取引規格改定が挙げられますが、歴史的円安の影響による飼料高が養豚経営を圧迫し大変だった反面、コスト高を上回る豚価には恵まれた年でもありました。しかしながら、飼料基金の無理な発動を受け、今後借入金返済完了まで少なくとも10年は費やすこととなります。基金の在り方は官民一体となって検討しなければならない喫緊の課題です。

飼料事情は、大豆粕の大幅高を受け今年も厳しい状況が続くことが見込まれます。昨年米国産とうもろこしは大豊作となり先安が見込まれましたが、価格は未だ一向に下がりません。米国全生産量の40%（全米輸出量の約3倍である1億3000万トン）がバイオ燃料に使われていることが一番の原因であり、収穫期になっても4ドル80セント～5ドルとシカゴ相場は堅調を維持しており、為替次第ではトン当たり5万円を超えてもおかしくない状況は継続しています。温室効果ガスの削減が叫ばれている以上、とうもろこし価格低下は期待しにくく、飼料高は付いて回ると理解すべきです。EV車が普及すれば変化が生じることも考えられますが、次は航空燃料向けのバイオエタノールの巨大市場が待ち受けています。行き過ぎた円安は修正されると思われますが、高コスト生産は続き、飼料基金に期待することは不可能な状況となっており、更なる生産成績の向上に

努めることが第一となります。「良い豚、良い餌、良い管理」これを徹底すること以外に方法はありません。

豚事協では4年ぶりに対面での支部セミナーを再開し、“ベンチマーキングを通じた経営改善を進める重要性について”をテーマとして、昨年9月から今春3月にかけて、全国7支部で開催しています。組合員の皆様方にはより積極的にご参加いただき、皆で実りあるセミナーにしたいと考えています。

初発から5年目を迎えた豚熱は九州にも広がりを見せ、九州でもワクチン接種が始まりました。現在九州での発生農場は2戸となっており、不明なままの侵入経路についての疑問は拭えませんが、これ以上広がらないことを願うばかりです。そして迫りくるアフリカ豚熱に備え、更なる防疫強化に取り組み、養豚産業が今後も継続できるように対策を講じることが最重要課題であります。

九州での豚熱ワクチン接種開始により、種豚、精液の流通が滞りなく行われるようになりました。組合の取り扱い数量は大きく伸び、半期決算において前年より大きく伸長することが出来ました。これもひとえに組合員の皆様のご協力のお陰と感謝申し上げます。それぞれ農場毎に抱える課題があるかと思いますが、獣医師でもある矢原専務が開設した「矢原の部屋」では、諸々経営相談も受け付けておりますので、是非ご活用ください。

円安は徐々に解消が見込まれ、少しずつ飼料価格は落ち着きを見せるでしょう。引き続き組合員全員のご協力を得ながら、飼料、資材等の安定供給に役員、職員一丸となって取り組んで参りますので、本年も何卒宜しく願い申し上げます。

## 第24期関東支部セミナー開催報告

第24期関東支部セミナーを11月2日（木）東京都のTKP東京駅カンファレンスセンターにて開催しました。辻内嘉明支部長による「久々の支部セミナー開催なのでしっかり学びの場として活かしてほしい」との挨拶で開会されました。101名の方々にご参加いただきました。

最初の講演は、松村理事長に「勝ち残る養豚経営に向けて」と題してご講演頂きました。「農水省の発表によると日本の養豚農家は3370戸となり、いよいよ減少傾向には歯止めが利かなくなっている。2年で3万円/トン上昇した飼料価格は下落傾向にありつつも高水準を未だ維持しており、今後も南米の作付や天候、中国の動向など不明瞭な要因も多く一寸先は闇かもしれない。枝肉価格は低水準で推移しており、1月よりエサは上がるが豚価は安いという厳しい状況がくるかもしれない。飼料基金は多額の借金を再び抱え、飼料メーカーは新たに投資することができないことは業界に関わる者として看過できない。このような状況の中で養豚経営を継続していくにはベンチマーキングなどを活用し徹底した数値管理で改善していくしかないと思っている。JASVベンチマーキング2022の結果では、母豚1頭当たりの年間利益が上位10% 66万円、下位10% 20万円とその

差は3倍以上と大きな開きになっていることは特筆すべきことである。国の支援や飼料の輸入価格下落を期待することなく経営を続けられるよう飼料要求率や事故率の改善などのコスト削減に取り組むべきである」と熱意を込めて語られました。

また、豚事協発足当初より提案してまいりましたコストダウンの三大要素である「良い豚、良い餌、良い管理」のモデル紹介も行いました。オランダでは母豚1頭当たり年間離乳頭数35頭となってきている高能力種豚Topigs Norsvinの育種の状況や、大幅にリニューアル中である豚事協指定配合飼料ゆめシリーズの内容や現在の価格などについて紹介いたしました。

続いて、草野俊郎氏（有限会社草野ファーム代表取締役）に「JASVベンチマーキングの活用例とその効果」と題してご講演頂きました。

### ○農場情報

- ・長崎県五島市
- ・母豚1,200頭
- ・品種：Topigs Norsvin（GP精液導入・インジーン契約）
- ・飼料：配合飼料

### 3.1 オランダの繁殖・離乳成績

	全農場	上位25%	上位10%
総戸数	177	44	17
平均母豚頭数/戸	529	655	823
年間口数	235	241	246
分娩率 (%)	88.2	91.4	92.3
再発率 (%)	5.6	6.4	5.8
再発率 (%)	5.4	4.5	4.4
生存産子数/頭	16.4	15.8	16.0
出生数/頭	1.2	1.1	1.1
健乳前事故率 (%)	11.3	8.5	7.8
離乳頭数/頭	19.5	14.2	14.8
離乳日数 (日)	26.5	26.2	25.3
年間離乳頭数	31.9	34.3	35.5
母豚事故率 (%)	6.7	5.5	4.8
母豚更新率 (%)	46.7	46.0	48.4

Topigs Norsvin

 Topigs Norsvin

図①Topigs Norsvin オランダでの成績

「長崎県五島市福江島で元々は島内にあった耐火レンガの鉱山の仕事に従事していた父が長崎県五島市福江島で養豚を始めたきっかけは、それに代わる産業を求め、五島列島で田尾畜産協同組合を設立し養豚業を皆で始めたことである。手作りの豚舎で母豚80頭の一貫経営から始まり、徐々に生産規模を拡大していった。施設設備の特に大きな変化は平成30年に畜産クラスター事業を利用して母豚1200頭規模まで拡大した時に大きな投資をしたことである。加えて古い豚舎も多いので毎年建て替えをしている。離島での工事依頼は時間もコストもかかるので自社で5人の従業員を抱えて行っている。(写真②参照)養豚業の他に島内で耕作放棄地が増えてしまっている状況に対応するために堆肥活用の循環型農業として野菜の生産も実施している。社員36名で養豚に関わるのは21名、出荷頭数は34,200頭。

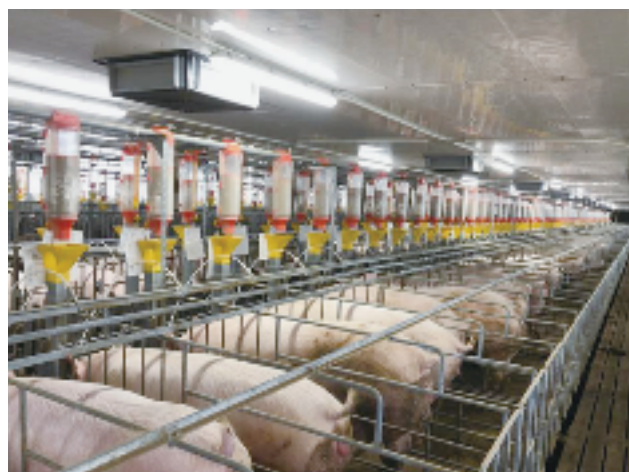
2016年PEDが農場に蔓延し厳しい状況になった時に(有)サミットベテリナリーサービスの石関先生に来ていただいたことが生産成績変化のきっかけ。どうしようもなかった状況から徹底した馴致など、言われた通りに行動していった結果が改善につながり、PRRS陰性化、母豚1200頭へ規模拡大とどんどん良い方向に向かい、生産成績が一気に良くなった。Topigs Norsvinを紹介してくれた豚事協と石関先生には非常に感謝している。サミットに指導していただいたことがきっかけで初めてJASVベンチマーキングに参加したが、当初はE,F判定が多く愕然とした。改めて離島で最新の情報を得られていなかったと痛感した。しかしJASVベンチマーキングで改善点が明確になったので社員も何をすればいいかが明確になり、非常によく頑張ってくれて成績を上げてくれた。オランダへの海外研修やセミナーへ社員を参加させたり、社内勉強会を実施して、徹底して獣医コンサルティングしていただいた内容を共有してきた。その結果、一時JASVベンチマーキングで母豚1頭当たりの粗利益部門で8位になった時もあり、2022年の結果でもB,C判定が中心になるまで改善が進んだ。設備投資も進めてきたが生産効率が大幅に上昇し現在自己資本率は63%と経営は安定してきており、お世話になった獣医の先生、豚事協に本当に感謝すると同時に、ここまで改善できたのはタイミングや会社

の状況も含めて運が良かったと思っている。ベンチマーキングの活用は成績が数値で見えることで社員のやる気にもつながり、勢いをもった規模拡大などの思い切った経営判断もすることができた。成績が悪いからといってベンチマーキングに参加を控えるのは非常にもったいなく、悪いうちから参加することで改善点の発見によるモチベーションへとつながることができる。自社も現在も課題を抱えているので今後もベンチマーキングを活用してさらなる生産性の向上に農場全体で取り組んでいきたい。」と締めくくられました。

離島というハンデを抱えつつも大きな利益を上げている草野氏の発表にベンチマーキングを活用して種豚の能力を出し切れるような管理がいかに利益を生むかとても説得力のある講演でした。



写真②草野ファーム自社での建築風景



写真③草野ファーム新設ストール舎（オランダ・Big Dutchman社、2400cmのストール）



写真④草野ファーム新設離乳舎



写真⑤草野ファーム肥育舎（オートソーター利用実験2022年より開始）

続いて、数野由布子氏（有限会社サミットベテリナリーサービス獣医師）に「(有)草野ファームのコンサルティングとJASVベンチマーキングについて」と題してご講演頂きました。

「(有)サミットベテリナリーサービスは28県の110農場と契約しており母豚規模9万頭をフォローしている。主な業務は次の4つがある。①飼育管理、衛生管理についての指導や衛生プログラムの設定（消毒、ワクチン、定期検査）、事業展開に関するアドバイス（生産システム、設備、資金繰り）、ワクチン接種、妊娠鑑定などを行う定期農場訪問。②迅速な病性鑑定などの疾病診断、ベンチマーキング（JASVベンチマーキングほか）などの経営診断、屠場サーベイランス。③農場HACCP・JGAP、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）などの食品安全認証制度、衛生管理システムの導入指導。④セミナー開催などの教育および啓蒙。

草野ファームのコンサルティングは2016年より開始したが、PEDからの回復を中心に成績が改善し、母豚1頭当たりの粗利益は当時から2022年で倍増し57万円、出荷枝肉重量も1200kgから2135kgとほぼ倍増と大幅に改善した。これは種豚をTopigs Norsvinに変更し、分娩率、哺乳中事故率の改善により1腹当りの離乳頭数8.5頭から12.73頭、母豚1頭当たりの出荷頭数18頭から29頭とその能力を引き出せるような管理になっていったことによるもの。またPED安定化後、PRRS陰性化にも成功し、1頭当たりの衛生費が2000円から1069円までほぼ半減したことも大きく利益に寄与している。

農場指導で大いに活躍するベンチマーキングだが、大切なことはまず正確なデータを継続して記録すること。それにより自農場の現状が見える化し、他の農場と比較することが可能になり、参考になる改善方法を見つけることができる。JASVベンチマーキングには全国の飼養母豚数約20%をカバーする180農場が参加しており、国内最大級のデータベースとなっている。データ数、エリア、規模いずれも幅広く網羅されており、自農場の実情をしっかりと映し出す。そのためその数値からJASVの養豚管理獣医師が実際の現場で活用してアドバイスすることができている。2022年よりウェブフォームも出来上がりシステムとしても改善を続けている。」と講演いただきました。

JASVベンチマーキングの過去10年の推移を紹介いただき、上位と下位の差がより開きつつあることが指摘されました。また、他のコンサル農場の実例も実際のデータと共に示され、ベンチマーキングを用いて改善点を発見することがいかに効果的に経営改善につながるか説明いただきました。参加方法や利用の仕方を案内いただき、「誰でも参加できるJASVベンチマーキングに参加して自農場の経営向上に活かしていきましょう」と強調されました。

最後に賛助会員によるプレゼンテーションの時間を設け各社4分ずつ下記9社が最新情報を提供しました。

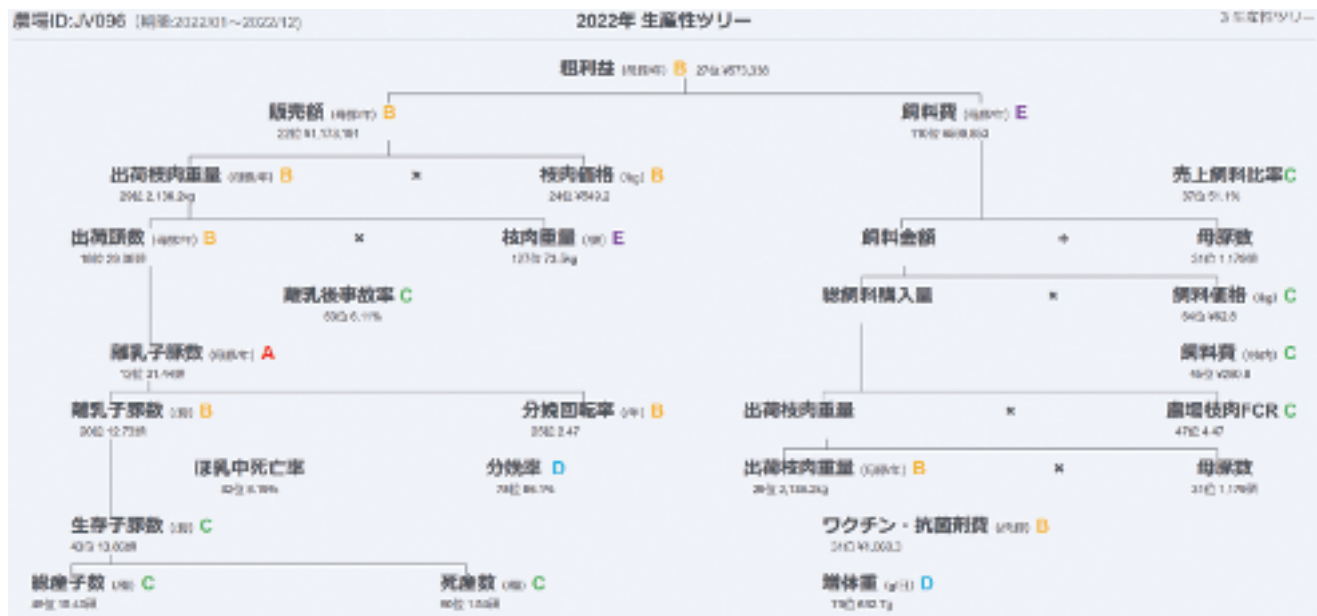
- ・(株)オルテックジャパン
- ・(株)YE DIGITAL
- ・(株)明正工業
- ・(株)富士フィルムVETシステムズ

- ・(株)日本ニュートリション
- ・(株)メンデルジャパン
- ・(株)Eco-Pork
- ・(株)日の出物産
- ・(株)アスコ

講演終了後は同会場で懇親会が行われ、講演会内で質疑時間が短かったこともあり活発な意見交換が行われました。(加藤)



図⑥JASVベンチマーキング2016年草野ファーム成績



図⑦JASVベンチマーキング2022年草野ファーム成績

## 第24期中部支部セミナー開催報告

第24期中部支部セミナーを12月1日（金）名古屋市のTKPガーデンシティ名古屋駅新幹線口にて開催しました。栗木貢男支部長の挨拶で開会されました。100名の方々にご参加いただきました。

初めに山本副理事長に「勝ち残る養豚経営に向けて」と題してご講演頂きました。「豚事協がコストダウンの三大要素として提案してきた良い豚・良い餌・良い管理で組合員みな勝ち残れるような提案をしたい。良い豚としては、現中部支部長の栗木貢男氏がオランダで発見して山本一郎先生との取り組みで薦めてきたTopigs Norsvinの母豚にメンデルデュロック精液の利用。この豚は枝肉75kgでもまだ背脂肪は薄く、枝肉80kgを越えてきてちょうどよい背脂肪厚になるよう豚枝肉取引規格が83kgまで上となった格付変更にも対応できる形になっている。このような遺伝子改良のスピードは凄まじく、もはや世界的に数社に淘汰集約されていく時代は目前にきていると予想される。これは同じ畜産経営である養鶏業界でも世界的に2,3社になってきた経緯に似ている。JASVベンチマーキング2022ではTopigs Norsvin利用者が主要部門の上位3位まで多くランクインし、日本国内でも非常に存在感を見せている。これはオランダのTopigs Norsvinの飼養農場の上位10%の成績と並ぶ結果となってきており世界に引けを取らない水準に日本のトップ養豚経営も達してきている。肉質も市場に受け入れられつつあり、味の評価からブランド化や飲食店の利用も進んでいる。良い餌として指定配合飼料ゆめシリーズを紹介。丸粒全粒粉碎のトウモロコシと大豆粕のシンプル配合で嗜好性の悪い原料を使わないことを原則としているため、豚がよく食べるし飼料効率も良いのがポイント。実際ベンチマーキング指標でも飼料費評価より枝肉飼料費評価の方が評価が高くなるという傾向があり、無駄のない飼料として機能している。またゆめシリーズを利用している組合員に参加してもらい生産者自ら設計、変更を検討する飼料品質研究会を四半期ごとに開催し、最新の知見を即反映することができるのも強み。実際に人工乳のCP大幅ダウンや有機亜鉛採用、アミノ酸バランスの強化などどんどん変更してリニューアルしている。飼料価格も理事長自ら粘り強く交渉することで、高止まりでなかなか価格が下がらない状況でもそれ以上の値下げ

交渉を実現している。良い管理とはJASVベンチマーキングを活用した効率の良い管理である。自社の強み弱みを知り改善点が明確化でき、その指標に基づいて自農場の利益を高めるためにJASVの獣医師の先生方から指導してもらうというのが最も効率の良い方法である。このように様々な項目において豚事協では紹介できる成功事例がそろっており、獣医師である矢原専務も在籍しているのでの的確なアドバイスもできるし、安価で安定的な商品の提供も続けていく。養豚技術は常に進化し続けているため現状維持は後退と同じであり、ともに先に進むために今一度自分の経営を見つめ直していただき、質問や相談があれば何なりと豚事協におっしゃっていただきたい」と話されました。

また、豚事協事務局より改めて指定配合飼料「ゆめシリーズ」の案内と共同購入の新商品、最近利用者が増えてきた豚事協ホームページからの便利なネット注文の紹介などを行いました。

続く講演は、鹿熊修氏（有限会社稲波ファーム）に「市場に求められる枝肉を目指して～JASVベンチマーキングを通して追求する」と題してご講演頂きました。

- 農場情報
  - ・茨城県稲敷市
  - ・母豚100頭
  - ・品種：Topigs Norsvin（PS導入）、デュロック（購入精液：（株）メンデルジャパン）
  - ・飼料：配合飼料

「1962年スウェーデンから在胎母豚のランドレースを父が輸入し種豚場として養豚経営を始めた。ヨーロッパの育種がどんどん進んでいく中で日本の種豚開発



図1 豚事協ホームページの取扱商品のネット注文画面

は長期的視野に欠き、例えて言うならば、欧米の育種はエコカーやEV車のような発想で進化しているが、日本の育種は昭和時代の燃費の悪い車のまま土台を変えずに進んで現在に至るという印象。このままでは経営の継続は難しいと思っていたところ、2011年東日本大震災が発生し放射能汚染問題が福島に隣接する茨城県でも非常に厳しい状況となり、一度は廃業を決意した。しかし、家族と話しあった結果、種豚場はきっぱりと辞めて、一貫経営に転換し外部導入や農場の改装をする決意をした。種豚場との比較で一貫経営がこれほどよいものかとおつくづく実感した。以前よりTopigs Norsvinは多産と聞いていたが育種の方向性に非常に驚いた。鳴き声が小さい、おとなしい、これは育種をしていた人間として考えられないことだった。もうこれは海外育種を利用する他にないと確信し、Topigs Norsvin GPをすぐさま注文した。そしてただちにPSへ移行できるようにした。多産なだけではない、肥育の生育速度も含め“高能力種豚”だと認識を改めた。

(有)サミットベテリナリーサービスの石川弘道先生に人工授精の精液について相談して以来、コンサルを依頼している。種豚生産を切り替えようと考え始めた2009年よりSVSベンチマーキングを始めた。この時様々な成績を見ていかに新たな種豚がすごい能力か知り、Topigs Norsvinでの生産が始まった2014年よりJASVベンチマーキングにも加入した。素晴らしいツールだが、我々養豚家の販売商品である枝肉に関しての分析がほぼないなどの課題もある。今回はこの枝肉について少し深掘りをしてみたい。

消費動向は常に変化している。脂の少ない鶏ムネ肉が売れるようになったように脂肪が敬遠される方向性は継続すると思う。また枝肉を買う側はとにかく歩留まりを重視している。つまり同じ重量でも脂肪が厚ければロスが多くなり利益が減るため、規格内の薄脂がよいということになる。良い枝肉とは単純に高い単価で評価されるものということだと思ふ。

1. (有)稲波ファーム：豊産生産性の種豚 種豚能力の差が顕わに  
Sw5m109-131 pig#POL14-211 MSVom220

	09年～16年平均	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年		
枝肉総重量	1,700	1,629	30,144	1,589	2,172	2,271	2,439	2,501	2,428	4/138
出荷頭数	22.4	22.8	30,144	25.7	28.4	28.2	31.6	32.1	31.3	4/138
平均枝重	75.9	75.8	70,151	78.3	78.5	77.2	77.2	77.6	77.4	40/180
年間総乳量	23.5	23.6	19,748	26.7	30.7	29.4	32.2	31.0	33.5	3/148
総乳頭数/頭	10.4	10.2	70,148	11.4	13.2	13.0	13.7	13.6	13.6	4/148
★繁殖率	80 → 84	1.55	8,140	1.30	2.19	1.82	1.11	1.74	2.09	6/138
繁殖費/頭	3.68 → 2.17	3.25	36,748	3.04	2.91	2.80	2.71	2.66	2.89	10/138

図2 稲波ファームの成績推移 (緑色はA判定、水色はC・D判定、黄色はE判定)

しかし、それをブランド化や差別化で生産性を捨ててまで重視しては結局儲けられない。種豚場時代にブランド化戦略もかなり重視してきたので、それがいかに経済性が低いかは痛いほどわかる。豚肉という性質上、和牛ブランドのような戦略はどうしても確立困難。そのため、少しでも高くしようというよりは安定した枝肉価格を目指し規格上限までギリギリに追い込むことが大切だと思う。実際JASVベンチマーキングで母豚1頭当たり販売金額部門上位10%農場の枝肉価格を計算すると、ほぼ枝肉価格部門の中央値に位置している。利益を高く上げている農場は高い価格で売っているわけではないということから、最終的に利益をあげるためには枝肉価格は中央値水準を安定的に目指すのが一つの指標だと考えている。(図3参照)

自社の枝肉価格は2020年からメンデルデュロック精液に変更したことで薄脂方向へ標準化したため肉質が安定化し、それ以前に比べて明らかに価格が上昇した。格付けも大切なポイントで2023年1月より83kgまで上物になったことは非常に歓迎すべきこと。いかにこの範囲に上物としてそろえるかが大切だが、自社では上物範囲内率(重量範囲と背脂肪範囲が上物規格内である割合)が2021年から2022年において70.09%で、出荷地域事業所平均は65.5%で高く推移しているが、その範囲内の枝肉が上だった割合が92.2%で事業所平均74.7%と比べると非常に高い。これがTopigs×メンデルデュロックで生み出された枝肉がいかに均質なものかわかる。(図5参照) もちろんその性質を引き出す生産管理も重要である。自社が中に落ちる理由は薄脂がほとんどだが、事業所平均では薄脂、厚脂どちらも同じくらい多く均質でないことがわかる。よく“薄脂の枝肉は締まりが悪い”と言うがこの表の通り締まりで問題視されて格付けを落とされることはほとんどない。これは“風評”である。

ベンチマーキング上位農場、実際の枝肉価格は？

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	
枝肉総重量	960,212	1,006,606	965,642	935,979	1,090,894	1,373,314	1,217,873	
枝肉総出荷重量	268,577	204,471	208,015	211,627	210,747	21,682	233,410	
上/中/下 重量 円	471.9	522.8	476.1	470.6	494.1	483.6	521.8	
枝肉当り頭数	910,246	962,188	930,722	929,755	991,535	952,837	1,289,417	
枝肉当り頭数重量	188.5	191.8	198.9	195.9	198.8	199.5	208.8	
上/中/下 重量 円	487.9	518.2	472.5	475.6	498.6	485.9	528.4	
枝肉当り頭数	785,750	886,636	808,206	828,195	904,021	852,277	867,842	
枝肉当り頭数重量	168.8	172.4	172.2	179.3	181.2	179.2	185.4	
上/中/下 重量 円	487.9	514.2	467.2	471.0	495.9	474.4	521.8	
枝肉価格	10%値	503.8	546.6	493.0	495.6	520.8	516.2	533.7
	25%値	485.9	538.1	480.0	484.0	512.5	498.7	538.7
	中央値	471.9	514.1	465.5	469.4	493.1	493.0	520.9

図3 JASVベンチマーキング推移2016年～2022年

枝肉価格の全国・地域比較 pigINFO(14年～21年) & JASVbm(22年) ㊟

枝肉価格の推移									
	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
全国上位9%	532	533	503	548	494	497	528	517	553
北関東9%	547		490	531	503	508	515	502	
全国上位2%	514	517	488	528	478	485	512	499	539
北関東2%	512		482	528	471	483	502	489	
全国中央値	500	503	472	515	484	489	497	481	520
北関東中央値	501		474	515	480	471	484	481	
当社	508	505	475	521	487	489	508	494	539
対全国中央値	0+	2+	3+	8+	3+	0	9+	13+	19+
対北関東中央値	5+		1+	8+	7+	2+	12+	13+	

止めのオス精液をメンデルデュロクタに変更

図4 稲波ファーム枝肉価格の推移

そして生産者としては枝肉歩留まりをどれだけあげられるかも大切。65%が一般的とされている数値だが、農水省の資料では71%で掲示されているものもある。カットの基準などを示したものだが、いかにこの歩留まり基準というものがあってないようなもので、かつ生産者側に知識がなく好き勝手にやられているポイントでもあるということがわかる。これほどベンチマーキングで詳細に数値を検証して生産性をあげようとしているのに、肝心の枝肉を販売する時にあまりに相手側に委ねすぎていて非常に問題ではないかと思う。これを改善するために業界としてもっと啓蒙し活動していく必要性もある。実際に研修として参加した全国食肉学校で枝肉重量を計測した時に、表示が80.0kgとなっているものが、片身を詳細に計測したら41.5kg、41.2kgと2kg以上実際は多かった。このようなことを見逃してはいけない。

生体重と枝重の関係性をなるべく1頭ずつ追いかけてデータを求めているが、基本的には生体重・枝重が大きくなれば歩留まりは良くなっている。もちろん出荷先によって異なるが、それでも重量が大きくなれば歩留まりが良くなる傾向は自社では同じであった。(図6参照)そして、出荷間際の肉豚の成長は非常に効率がよいということもデータを計測してわかってきている。(図7)これは骨や内臓の成長が終わったことで重量が変わらず、筋肉だけ成長して増量する時期であることから推察される。これを生かすためにも歩留まり、上物範囲を総合的に考えていかに適切な脂肪厚のまま出荷体重を枝重83kgまで大きくできるかが一頭あたりの利益を最大化する要点と考える。

繁殖能力の違いはあっても管理ポイントは同じで高能力種豚の繁殖能力は30頭出荷が十分可能である。最後に、種豚の能力を引き出す管理のポイントとして、次の5つを重視している。① 母豚はまだまだ成長しているという前提のもとでの産歴ごとのボディコン管理を適切に、② 泌乳能力を損なわない授乳期無乳症(MMA) 予防などの過肥をさける分娩期の管理(注:②が大事)、③ 分割授乳・里子・里親・人工哺育の活用、④ 餌付けや清潔な容器・水管理による離乳子豚のストレス緩和ケアで離乳後の事故・発育不良予防、⑤ 母豚の離乳前後の管理と交配技術、とくに早すぎる傾向にある許容開始と終了を厳密に見極めること。これらのことから自社では受胎率、分娩率ともにほぼ100%を近年維持できている。みなで勝ち残っていくためにもベンチマーキングから数値を読み取り経営に

### 格付け内容のまとめ

日格植土浦事業所での格付け実績；2021年1月～2023年9月																
格付け等級割合： 単位% (21年1月～22年12月)											23年1月～9月					
	上範囲内率 ①		上範囲内上 以上率②		極上・上	中	並	等外	上範囲内率 ①	上範囲内上 以上率②						
当社	70.9		92.2		65.4	26.3	3.7	4.6	61.1	91.2						
事業所全体	65.5		74.7		48.9	39.1	8.7	3.3	50.5	75.4						
① 上範囲内率＝重量範囲と背脂肪範囲が上物規格内の枝肉																
② 上範囲内上以上率＝重量と背脂肪厚が上物規格内で実際に上以上に格付けされた枝肉の割合																
総出荷頭数に占める「中」等級決定項目の割合 単位%											23年1月～9月					
等級 決定項目	重量		均物	肉付	厚脂肪①		厚脂肪②					③	重量 大小	背脂	厚肉	締り
	大	小			背	腹	背	腹	背	腹	背					
当社	8.2	0.1	2.9	0.4	10.8	0.9	1.9	1.2	0.3	0.2	0.0	3.2	13.0	12.4	2.3	2.7
事業所全体	7.6	0.2	8.4	2.8	9.5	2.6	5.6	4.2	2.9	0.4	3.2	6.0	7.2	13.0	13.3	7.3
① 高能力種豚の産子は発育が早いほど背脂肪が薄くなる傾向がある																
② 斜字項目は種豚の遺伝形質の影響が大きく特に上物率に影響																
③ 落着形質は肉締りには関係しないが、要求率には大きく関係する																

図5 稲波ファーム上物範囲率と中落ち理由



## 生体重と枝重の関係(歩留まり)

出荷先	体測日	と畜日	設定歩留り	
乙社	23.4.19	23.4.20	66.50%	
出荷No	生体重	予割枝重	実枝重	実歩留り
1	117.5	78.1	78.0	64.7
2	118.0	78.5	76.0	64.4
3	118.0	78.5	76.0	64.4
4	118.5	78.8	76.5	64.8
5	118.5	78.8	77.0	65.0
6	118.5	78.8	77.0	65.0
7	118.5	78.8	77.5	65.4
8	118.5	79.0	77.5	65.4
9	119.0	79.1	78.0	65.5
10	119.0	79.1	78.0	65.5
11	119.0	79.1	78.5	66.0
12	119.5	79.5	78.5	65.7
13	119.5	79.5	78.5	65.7
14	119.5	79.5	78.5	65.7
15	119.5	79.5	79.0	66.1
16	119.5	79.5	80.0	66.9
17	119.5	79.5	80.0	66.9
18	120.0	79.8	80.0	66.7
19	120.5	80.1	80.5	66.8
20	120.5	80.1	80.5	66.8
21	121.0	80.5	80.5	66.5
22	121.0	80.5	81.0	66.9
23	121.0	80.5	81.0	66.9
24	122.5	81.5	81.5	66.5
25	123.5	82.1	82.5	66.8
26	124.0	82.5	83.0	66.9
27	128.0	85.1	86.0	67.2
数量平均	120.1	79.8	79.2	66.0

頭数	生体重	平均枝重	歩留り
1	117.5	76.0	64.7
2	118.0	76.0	64.4
5	118.5	77.1	65.1
3	119.0	78.2	65.7
6	119.5	79.1	66.2
1	120.0	80.0	66.7
2	120.5	80.5	66.8
3	121.0	80.8	66.8
1	122.5	81.5	66.5
1	123.5	82.5	66.8
1	124.0	83.0	66.9
1	128.0	86.0	67.2
数量平均	121.0	80.1	66.1
数量平均	120.1	79.2	66.0

図6 稲波ファームの出荷体重と歩留まり推移 1

出荷先: 乙社 (水曜休 一 月単出荷計画)					増体予割1口/18kg、予割歩留り/60% 設定				
出荷ロット番号	体測日(水曜休)	生体重	予割生体重	予割歩留率	実枝重(月曜日)	相違生体重	5口割増枝重	1口増枝重%	増定増体率%増定増体重/生体重
1	2月8日	116.6	122.6	82.1	83.1	124.0	7.4	1.48	106.4
2	2月15日	116.4	121.4	81.8	81.8	122.1	6.7	1.34	106.8
3	2月21日	112.5	118.5	79.4	81.4	121.5	9.9	1.89	108.0
4	3月1日	111.6	117.6	78.8	79.7	118.0	7.4	1.47	106.6
5	3月8日	111.8	117.8	78.9	78.7	117.5	5.7	1.33	105.1
6	3月15日	111.1	117.1	78.5	78.5	117.2	6.1	1.21	105.6
7	3月22日	114.1	120.1	80.5	80.5	120.1	6.0	1.21	106.3
8	3月29日	114.5	120.8	80.9	80.5	120.1	5.3	1.07	104.7
9	4月5日	114.8	120.8	80.8	81.1	121.0	6.2	1.25	105.4
10	4月12日	115.2	121.2	81.2	81.6	121.5	6.6	1.32	105.7
11	4月19日	115.5	121.5	81.4	81.7	121.9	6.4	1.29	105.6
12	4月26日	114.5	120.8	80.9	82.3	122.8	8.9	1.61	107.0
13	5月3日日	115.3	121.3	81.3	82.4	123.0	7.7	1.54	106.7
14	5月10日	114.9	120.9	81.0	81.1	121.0	6.1	1.23	105.3
15	5月17日	114.4	120.4	80.7	80.7	120.4	6.0	1.21	105.3
16	5月24日	114.6	120.6	80.8	81.6	121.8	7.2	1.44	106.3
17	5月31日	115.2	121.2	81.2	80.8	120.6	5.4	1.08	104.7
18	6月14日	115.7	121.7	81.5	81.6	121.8	6.1	1.22	105.3
19	6月21日	115.2	121.2	81.2	81.4	121.5	6.3	1.28	105.5
20	6月28日	114.9	120.9	81.0	80.5	120.1	5.2	1.05	104.6
21	7月12日	113.5	119.5	80.1	80.2	119.7	6.2	1.24	105.5
22	7月19日	112.3	118.3	78.3	79.4	118.5	6.2	1.24	105.5
23	7月26日	113.1	119.1	79.8	79.5	118.7	5.9	1.11	104.9
24	8月2日	113.3	119.3	79.9	79.2	118.2	4.9	0.98	104.3
25	8月16日	111.5	117.5	78.7	77.9	116.3	4.8	0.85	104.3
26	8月23日	112.6	118.6	79.5	79.5	118.7	6.1	1.21	105.4
27	8月30日	112.6	118.6	79.4	79.5	118.7	6.2	1.23	105.6
28	9月6日	113.2	119.2	79.9	80.0	119.4	6.2	1.23	105.4
29	8月20日	113.7	119.7	80.2	79.5	118.0	5.1	1.02	104.5
30	8月27日	114.6	120.6	80.8	80.8	120.7	6.1	1.23	105.4
平均	114.0	120.0	80.4	80.6	120.2	6.2	1.29	105.5	

図7 稲波ファーム出荷間際の増体重

生かすということが、業界全体に広がってほしい」と締めくくられました。

最後に、石川弘道氏（有限会社サミットベテリナリーサービス代表取締役・獣医師）に「(有)稲波ファームのコンサルティングとJASVベンチマーキングについて」と題してご講演頂きました。

稲波ファームの成績の推移を説明すると同時に、その経緯もご紹介いただきました。過去10年のJASVベンチマーキングの推移や参加方法についてもご説明いただきました。詳細は本誌の関東支部セミナー記事を参照ください。

講演終了後は質疑応答がなされ、懇親会も行われま

した。講演会での紹介ができなかったため賛助会員によるプレゼンテーションの時間が懇親会中に設けられ情報提供いただきました。

- ・(株)YE DIGITAL
- ・(株)中部エコテック

- ・(株)明正工業
- ・(株)日の出物産
- ・(株)アスコ
- ・(株)東亜薬品工業

(加藤)

Topigs系肉豚の肉質 (上・Topigs-ps (WL) 去勢 下・WLD去勢)

Topigs-ps去勢バラ肉の断面



図8 稲波ファームのバラ肉とその断面

Topigs-WLD ロース 高能力種豚産子の肉質レベルは極めて高い



図9 稲波ファームのロース肉断面と自家製ベーコン・生ハム



図10 稲波ファームスウェーデン輸入在胎母豚



図11 稲波ファームTopigs導入当初

# 「矢原の部屋」

専務理事 矢原 芳博

## 早速お問い合わせを頂いております。

みなさんこんにちは。前号で、皆様のお悩み相談窓口「矢原の部屋」を立ち上げたことをお知らせしたところ、早速いくつかのご相談を頂いております。大変ありがとうございます。考えてみれば、豚事協事務局に居る私が組合員の皆様からのご相談を受けることはごく当たり前の業務ではありますが、何か名前があった方が相談をするきっかけになるかと考えました。今後もいつでもご連絡をお待ちしております。

## 豚事協には色々な資材の情報が寄せられています。

組合員の皆様からのご連絡と同時に、豚事協事務局には、賛助会員様など多くの関連業者の方々から、色々な資材のご紹介を受けております。すでに効果がしっかりと確認されていたり、どの農場においても効果がある程度期待できる資材については、順次共同購入品目に組み込んでおります。しかし、例えば生菌製剤などのように農場によって効果の出方にばらつきが予想される資材や、まだ業界内でその効果について確証が持てるどころまで行っていないものもいくつかあります。

もし、組合員の皆様の中で、「うちの農場は〇〇が課題になっていて、それに効果が出るかもしれない資材があるなら試してみたい！」という方がおられたら、これも「矢原の部屋」までご一報くだされば、農場の状況をお聞きして、紹介された資材で面白そうなものがあれば、試験サンプルの提供も含めてご提案させていただきます。それら資材の効果については無理のない範囲で結果をお知らせ頂ければ、事務局の情報収集にもなりますので助かります。

## PRRSフォーラム第1回大会が開催されました。

これも前号でご紹介しましたが、PRRSフォーラムの第1回大会が12月4日につくば国際会議場で開催されました。PRRSウイルスが発見されてから30年以上が経っているにもかかわらず、いまだに世界の養

豚業界に大きな経済的被害をもたらしているこの病気に対して、多方面の立場の人々が集まって情報を共有し、同じ方向を向いて立ち向かっていこう、という志で始まった会ですが、その第1回大会には、大勢の方々が会場あるいはWeb参加され非常に活発な議論が交わされました。

午前中は、大竹聡先生（PRRSとの闘いの歴史）、高木道浩先生（国内PRRSウイルスの遺伝子の多様性について）、佐々木羊介先生（国内のPRRSの経済的損害について）の3名から基調講演があり、午後には、3つの分科会（①免疫&検査、②生産システム（ピッグフロー・設備）、③地域ぐるみのPRRS対策&バイオセキュリティ）に分かれて議論を深めました。私は、旧職からの関わりもあって、免疫&検査の分科会で議論に参加しました。母豚へのワクチン接種の方法や遺伝子変異のモニタリング方法などについて様々な意見が出てきましたが、ワクチン接種の方法一つとっても、農場でベストな接種方法を導き出すためには、PRRSそのものの浸潤状況だけでなく、その他の病気の状況や飼育環境等々、様々な要素を包括的に考える必要があるという話になり、この病気の難しさを改めて痛感しました（だからPRRSフォーラムができたんですが…）。やはりこの病気は最終的には農場から排除しなければならないな、という思いを新たにしました。また、他の分科会においては、ピッグフローや豚舎設備を切り口にPRRS対策を考えたり、地域ぐるみで取り組むPRRSのコントロール（エリアリージョナルコントロール（ARC））など、それぞれ異なった切り口での議論がなされ、最後にそれぞれの分科会での議論をまとめました。

このフォーラムは今後も継続的に開催されますので、次回までに自分なりに何らかの進捗ができるよう行動しようと思っております。

以上

## 豚事協共同購入資材のご案内

### ・スマートコルツヒーター [i-QST300]

温度設定がリモコン操作で簡単に操作できる機能付きコルツヒーター。センサー温度が50℃を超えると自動で電源が切れ、50℃以下になると自動で電源つく安全機能を搭載。電源オンから30分以内フル稼働して目標温度になると自動的に消費電力を下げる節電効果もあります。また防水コネクタ式 (IPX 4) で防水構造になっています。

#### 商品詳細

幅…35cm

高さ…18cm

奥行…15cm

電源…単相100V 300W、単相200V 300W

チェーン…2m

※50/60Hz両方対応

価格 19,800円 (税込み、送料別)

発送元 (株)イノセント



## 豚事協の第24期行事

### 理事会

第 1 1 5 回	……………	令和 5 年 6 月 15 日 (木) (東京)
第 1 1 6 回	……………	令和 5 年 7 月 28 日 (金) (東京)
第 1 1 7 回	……………	令和 5 年 7 月 28 日 (金) (東京)
第 1 1 8 回	……………	令和 5 年 9 月 21 日 (木) (東京)
第 1 1 9 回	……………	令和 5 年 12 月 21 日 (木) (東京)
第 1 2 0 回	……………	令和 6 年 3 月 14 日 (木) (東京)

### 豚事協セミナー

北海道支部セミナー	……………	令和 5 年 9 月 15 日 (金)
東北支部セミナー	……………	令和 5 年 10 月 6 日 (金)
関東支部セミナー	……………	令和 5 年 11 月 2 日 (木)
中部支部セミナー	……………	令和 5 年 12 月 1 日 (金)
九州支部セミナー	……………	令和 6 年 2 月 9 日 (金)
沖縄支部セミナー	……………	令和 6 年 3 月 1 日 (金)
関西中四国支部セミナー	……………	令和 6 年 3 月 22 日 (金)

### 女性部

第16回女性部セミナー	……………	令和 6 年	日程未定
-------------	-------	--------	------

### その他

海外視察研修	……………	令和 5 年 6 月 6 日～12 日 (アメリカ)
国際養鶏養豚総合展2024	……………	令和 6 年 4 月 24 日～26 日 (ポートメッセなごや)
◎今回も国際養鶏養豚総合展 (IPPS2024) に出展いたします。		

※青字は令和 6 年 1 月 1 日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

### 編集後記

\*\*\*

あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。2024 年、新年はどういう年になるでしょうか?辰年の中でも甲(きのえ)辰という十干十二支 (甲乙丙など 10 種と子丑寅など 12 種の組み合わせ最小公倍数 60 で一周、いわゆる還暦の由来です) の 41 番目の巡りとなるそうです。キーワードは「変革」「激動」を連想するとのこと、前回の甲辰は 1964 年、アジア初の東京オリンピック開催や東海道新幹線の開通など華々しい時より 60 年です。養豚を取り巻く環境はまさに激動であり、ウクライナ紛争や中東戦争による穀物相場の不安定感の中、大幅な円安も相まって飼料価格の高騰が続いておりますがそろそろ相場も取まってもらいたいものです。アメリカでは 2023 年産は史上 2 番目の収穫量となるといわれており、為替も年明けから動きがあるのではとささやかれる現状で光明がわずかに見えてきたのではと希望をいただいております。冬は鍋物にしゃぶしゃぶに豚肉が活躍する場面が多くあり、いい枝肉価格が推移することと思います。先日参加させていただいた JPPA 主催有楽町駅にて実施された「俺の豚を食ってくれ」でも根強い消費者の国産ニーズを肌で感じる事ができました。豚事協ではその消費者への期待に応えるためにも皆様の生産を支援する共同購入の促進やセミナーなどの教育事業へますます力を入れていきます。2024 年は 3 年に一度の国際養鶏養豚総合展 2024 (IPPS2024) に豚事協も出展いたします。養豚経営の一助となる資材、サービスを提供提案できる鋭意準備を進めております。豚事協もコロナ禍もあけましたので大きく変革していき活発に活動させていただき、今年はいよいよ一年であった皆様についていただけるよう努めてまいります。組合員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。(加)